令和7年度西成区区政会議 第1回にぎわい部会 会議録

1 開催日時 令和7年6月20日（金曜日） 14時から15時45分まで

2 開催場所 西成区役所4階 4-5・7会議室

3 出席者の氏名

【区政会議委員】

小林 大悟議長、鈴木 貴子副議長、伊藤 由佳委員、上田 假奈代委員、庄野 秀次委員、高橋 裕二委員、宮尾 有美子委員、宮本 浩委員

【市会議員】

山口 悟朗市会議員

【西成区役所】

稲嶺 一夫（区長）、三原 桃子（副区長）、森 浩一（保健福祉担当部長）、得能 邦彦（総務課長）、式地 光雄（総合企画課長）、宇野 新之祐（まちづくり推進担当課長）、北野 陽一（市民協働課長）、原 結花（保健福祉課長）、横山 伸征（福祉担当課長）、森 賀代（区政推進担当課長代理）

4 委員に意見を求めた事項

- (1) 令和6年度西成区運営方針自己評価について
- (2) 令和7年度西成区運営方針について
(新たなアウトカム指標案について)

5 議事内容

【森区政推進担当課長代理】

それでは、定刻でございますので、只今より令和7年度西成区区政会議第1回にぎわい部会を開催いたします。本日まで出席の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めます西成区役所総務課課長代理の森でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それではまず会議に先立ちまして、事前に送付させていただいております会議資料の確認をさせていただきます。まず、令和7年度西成区区政会議第1回にぎわい部会次第、次に、令和7年度西成区区政会議委員にぎわい部会名簿、次に、令和7年度西成区区政会議開催予定、次に資料1の1、令和6年度西成区運営方針自己評価、次に資料1の2、令和6年度西成区運営方針自己評価説明用資料、次に資料2、令和7年度西成区運営方針新たなアウトカム指標案について、次に参考資料、令和6年度第3回全体会での委員からのご意見・ご質問と区の考え方、最後に意見票です。また、本日机の上に区政会議の議題に関するアンケート、にぎわい部会を置かせていただいております。こちらについては会議の最後にご案内させていただきます。以上でございますが、不足等ございましたら挙手をお

願いいたします。皆様よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは確認事項を何点か申し上げます。本日の会議につきましては、条例で定める委員定数の2分の1以上の委員のご出席をいただいております。開催の要件を満たしていることをご報告させていただきます。次に、この会議は公開となっておりますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。また区民の方に、より区政会議を知っていただくため、本会議を録画したものをYouTubeにて公開いたします。ご理解のほどどうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は傍聴の方が1名来られておりますのでご報告いたします。報道機関の取材はございません。次に、会議中ご発言いただく際はマイクを使用し、なるべくゆっくりはっきりとお話いただきますようご協力をお願いいたします。確認事項は以上でございます。それでは開会にあたりまして区長の稲嶺よりご挨拶を申し上げます。区長よろしくお祈いします。

【稲嶺区長】

皆様こんにちは。この4月から西成区長を拝命いたしました稲嶺と申します。以前、11年ほど前ですけど福祉局で生活困窮の自立支援室長をやっております。西成区の北の部分に定着し関わりを持っておりました。今回は西成区全域という事でございまして、ちょうど100周年を迎えているということでございます。一つの大きな節目の時に区長をさせていただく、という身の引き締まる思いとともに、わくわくするような気分です。

また、新今宮の駅前で、あいりん総合センターというのがちょうど建て替えというような状況でございまして、これから西成が大きく変わろうという風に把握しております。ちょうど万博も開催されて連日大にぎわいというところでございますが、今日も大変暑い中皆様方にお越しいただきましてありがとうございます。

令和6年度の運営方針の自己評価と令和7年度運営方針についてお諮りをするという事でございます。西成区では3つの部会に分かれてより議論が深まりますように部会制度でいっております。特に、このにぎわい部会では大変皆様から貴重なご意見をいただいているという風に聞いております。今日も皆様方忌憚のないご意見いただきまして、区政に反映してまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【森区政推進担当課長代理】

ありがとうございます。それでは次に委員の皆様をご紹介します。配布している委員名簿をご覧ください。

伊藤委員でございます。

上田委員でございます。

小林委員でございます。

庄野委員でございます。

鈴木委員でございます。

高橋委員でございます。

宮尾委員でございます。

宮本委員でございます。

なお本日、福山委員、本家委員におかれましては、所用の為ご欠席されております。

続きまして、本日オブザーバーといたしまして、出席をいただいております市会議員の方々を紹介させていただきます。

山口議員でございます。

【山口議員】

よろしく願いいたします。

【森区政推進担当課長代理】

それでは、次に区役所職員の紹介でございますが、職員につきましては、配布しております名簿をご確認いただきたいと思います。よろしく願いします。

それでは、以降の議事進行は議長にお任せしたいと存じます。小林議長、どうぞよろしく願いします。

【小林議長】

はい、それでは早速始めさせていただきたいと思います。お手元の次第に沿って、進めてまいりたいと思います。議題1の令和6年度西成区運営方針自己評価について、事務局より説明をお願いいたします。

【得能総務課長】

いつもお世話になっております。西成区役所総務課長得能でございます。そうしましたら、私の方から令和7年度西成区区政会議開催予定と、あわせまして西成区令和6年度西成区運営方針につきましてご説明させていただきます。よろしく願いします。

まず、令和7年度西成区区政会議開催予定をご覧ください。縦長の表になっております。こちらの方でございますが、時系列で申し上げますと、4月に令和7年度運営方針の確定・公表を行いました。次に、本日開催のにぎわい部会、既に開催済みのこども部会、安全あんしん部会の各部会の第1回目の会議を6月に開催し、令和6年度運営方針の振り返りを行っております。

今後、7月下旬から8月上旬にかけて、各部会の第2回会議を開催いたします。第2回目の会議におきましては、本日アンケートにご回答いただき、その内容に沿って議題を設定し、委員の皆様には忌憚のない意見交換をしていただくとともに、令和7年度運営方針につきましてご意見をいただきたいと思います。存じます。

また、9月に第1回全体会を開催しまして、各部会での意見報告及び全体会での意見聴取などを行ってまいりたいと考えております。頂きました意見を踏まえながら、令和8年度に向けた運営方針案の策定及び予算、要求を行ってまいりたいと考えております。

次に、12月に第2回全体会を開催し、令和8年度運営方針案についてのご意見をいただ

いてまいりたいと考えております。また、令和8年2月下旬から3月の間で、第3回全体会を開催し、令和8年度予算案についてのご意見も頂戴してまいりたいと考えております。区政会議の場で頂きましたご意見を踏まえながら、令和8年度運営方針を確定させ、令和8年4月に公表してまいりたいと考えております。令和7年度西成区区政会議開催予定につきましては以上でございます。

続きまして、議題1の令和6年度西成区運営方針の自己評価の説明をさせていただきます。お手元の資料1の1、右上に書いてございます資料1の1の1ページ目をご覧ください。

こちらの上段上の段に目標、使命及び所属、運営の基本的な考え方を記載させていただいております。まず、目標といたしましては、「すべては子どもたちのために」をキャッチフレーズに、人と人とのつながりを大切に、みんなが笑顔で暮らしやすいまちをめざすとしております。

次に、令和6年度所属運営の基本的な考え方といたしましては、若い人や子育て世帯を呼び込み、活力あるまちをつくるため、①子どもの夢がひろがるまち、②人と人がつながりにぎわうまち、③みんなが安心して暮らせるまちを3本柱として施策を進めていくとしております。このうち、にぎわい部会につきましては、②人と人がつながりにぎわうまちの担当になります。

次に、資料1の1の2ページ目をご覧ください。2ページ目の上段の方ですね、経営課題2、人と人がつながりにぎわうまちとなっております。令和6年度予算につきましては、6事業で計1億2000万円となっております。まず、この表の上から2つ目、主な戦略といたしましては(1)住みたいまち、行ってみたいまちにする、(2)地域の活動を支えてつながりをつくる、(3)誰もが活躍して輝けるまちにする、の3つでございます。

次に、経営課題の進捗度合いを示したアウトカム指標といたしましては、いずれも区民アンケートによるものでございますが2つございます。1つ目、あなたが持っている西成区のイメージはどれが近いですか、に肯定的な回答の割合が令和9年度までに70%とすること、そして令和6年度で57%とすることです。この指標の達成状況につきましては、令和6年度実績が47%であったため、Bの「未達成」となりました。

次に2つ目、身近な地域で見守りや助け合いなどのつながりづくりが進んでいると思う割合が、令和9年度までに89%とすること、そして令和6年度で68%とすることです。この指標の達成状況につきましては、令和6年度実績が68%であったため、Aの「達成」となりました。

次に、資料1の1の3ページ目をご覧ください。こちらに運営方針に対する自己評価を記載させていただいております。その中段に、経営課題2についての内容を記載させていただいております。まず、新今宮エリアブランディングの取組、西成しごと博物館、西成情報アーカイブなどを実施して情報発信したことにより、西成区の魅力を感じていただくことができたとしております。

次に、区主催イベントや地域団体が主催するイベントにおいて、地域活動協議会や町会加入勧奨に関する周知活動を行ったり、様々な媒体を活用し情報発信を行ったとしており

ます。その一方で、身近な地域における見守りや助けあいなどのつながりづくりの重要性の周知等がまだまだ不足しているため、ターゲットに応じた情報発信を行っていく必要があるとしております。更に、西成版サービスハブ構築運営事業においては、対象者に応じた中間的就労等の機会を提供するなど、支援プログラムを実施することなどにより、社会参加を促すことができたとしております。

次に、資料1の1の4ページ目、今後の方針の経営課題2をご覧ください。まず、各事業において広く情報発信することで西成区の魅力を感じていただき、また、住民の担い手の確保や身近な地域で見守りや助け合いなどのつながりづくりが進むような取組を進め、イメージアップを図っていくとしております。

次に、西成版サービスハブ構築運営事業において、引き続き対象者に応じた支援プログラムの実施と中間的就労の開拓に取り組むとしております。

次に、資料1の2の2ページ目をご覧ください。こちらの方に令和6年度運営方針経営課題における具体的取組について記載しております。にぎわい部会につきましては、先ほども若干触れましたが、計6事業となっております。それでは、この6つの事業につきまして担当の方よりご説明させていただきます。よろしく申し上げます。

【式地総合企画課長】

皆様こんにちは。総合企画課長の式地と申します。着座にて失礼いたします。私からは経営課題2にあります、具体的取組の1つ目の西成区文化観光振興事業それと、いちばん最後6つ目の西成版サービスハブ構築・運営事業のこの2事業について説明させていただきます。

それではページをめくっていただきまして、3ページをご覧ください。西成区文化観光振興事業でございます。まず、資料の上段にございます事業の目的でございますが、西成区の歴史や芸術文化、観光資源といったものに関しまして、にぎわいを創出するとともに、広く情報発信することで区民の方々の愛着を深める、また区外の方にも魅力を感じてもらえるような取組をするといったところでございます。それで昨年度、6年度の取組実績でございますが、まず、西成区に本拠地を持ちます、国内でも第一級のオーケストラであります大阪フィルハーモニー交響楽団のフィルハーモニー協会さんと昨年6月に連携協定を締結させていただきまして、右下の写真にもありますがクリスマスロビーコンサート、小学校4年生から6年生までを対象といたしまして、無料のオーケストラ鑑賞会を開催など、大阪フィルハーモニー様のご協力のもと、そうした音楽に触れられる機会の拡充をはかって参りました。また、大阪フィルハーモニー交響楽団さんには、区内の小中学校の出前授業といたしましてプロの生演奏やワークショップなどを実施していただいたところでございます。

次に、西成しごと博物館の実施でございます。これは西成区や近隣の子どもたちにもものづくりの意義とか楽しさ、素晴らしさを伝えまして、地元企業、引いてはわが町への愛着を感じてもらうことを目的に、大阪府中小企業同友会の西成支部さんと連携いたしまして、19の地元企業の業者さんにもご協力いただきまして、イベントを開催いたしました。

当日は、357名の子ども達に、ご参加いただきましてものづくり体験などをしていただいたというところでございます。

次に、芸術文化活動を通じましたにぎわい創出に向けたイベント「ちょちょまうヴァナキュラー」というものを実施しております。これは、もと今宮小学校を拠点にしましてその小学校に残ります陶芸窯や畑、廃材などを活用した誰もが参加出来るアートプロジェクト活動でありまして、こうした芸術活動を通じてコミュニティが形成されることを目的に、アーティストとか近隣住民の方々、児童から大学生という様々な年齢層の方にご参加いただきまして、それぞれの作業場として、定期的な開催に加えまして、秋には、右下の写真にあるような「ちょちょヴァナ 2024」と題しましたイベントを開催するなど、延べ1447名の方にご参加いただいたところでございます。

それと最後の報告になりますが、新今宮エリアの魅力向上イベントということで「新今宮ワンダーランド 2024」という、これの開催支援をしております。これは新今宮エリアの魅力向上に向けて令和5年度に設立されました、新今宮エリア魅力向上有限責任事業組合さんが中心となりまして、民間事業者による主体的な取組といたしまして、魅力向上イベントを開催していただいております。こうした取組に関する後方支援という形ではございますが、情報発信等の支援も実施してきたところでございます。

以上の取組の自己評価と今後の方針ということで記載しておりますが、こうした取組によりまして、区内外の方に西成区の魅力を感じていただく場の提供が出来たかなという風に考えております。

この取組に続きまして、西成区の歴史、芸術文化、観光資源を活かしたにぎわいの創出、それから情報発信をすることで、区内外の方に魅力を感じていただけるような取組を進めて参りたいと考えています。

続きまして、恐れ入りますがいちばん最後のページになりますが、「西成版のサービスハブ・構築事業」でございます。この西成版サービスハブ事業は、就労に向けた課題を抱える生活保護受給者の方々に、就労意欲の喚起や生活習慣の改善を支援いたしまして、就労やボランティアによる社会参加と共にこうした再チャレンジに取り組む利用者を支援することにより、まちの活性化とかイメージアップにつなげていく事を目的としております。

昨年度の取組の実績でございますが、対象者に合わせまして、支援プログラムを作成いたしまして、生活習慣の改善や右下の写真にもありますように、清掃活動などの就労体験を通じまして、改善に向けた支援をやっているということになります。支援件数に関しましては、目標の50件に対しまして56件の支援を実施いたしたところでございます。

また、就労体験やボランティアなどの中間的就労の受け入れ先も開拓しながら、対象者に合わせたマッチングも実施してございまして、受け入れる先の開拓につきましても、目標の15件に対しまして、26件の開拓が出来ている状況でございます。その自己評価と方針ということで、記載しておりますように、対象者に合わせた支援プログラムを実施することで、着実にステップアップしながら社会参加を促すことが出来ている、という風に考えております。今後も引き続き、支援プログラムの実施と就労体験先の開拓にも引き続き取り組んでいこうと考えております。私からは以上でございます。

【小林議長】

ありがとうございます。委員の皆さんどうぞ、はい。

【北野市民協働課長】

申し訳ございません、市民協働課の北野と申します。よろしく申し上げます。私の方からは、今の資料の4ページから3つの事業についてご説明させていただきます。

まず、1つ目4ページになります。「地域コミュニティ支援事業」でございますが、こちらにつきましては、地域活動協議会の運営を支援することによりまして、地域課題の解決や地域コミュニティの活性化を図るという目的で実施しています。

昨年度の取組実績としましては、地域活動協議会の事実的な組織運営に向けた支援であったり、地域活動協議会に対して補助金を交付しまして地域課題の解決や地域コミュニティの活性化を目的とする事業の実施を支援してまいったところでございます。

その他、区役所が主催するイベント等におきまして、地域活動協議会や町会加入勧奨に関する周知活動を行ってきております。その他、地域での活動、区役所内、SNS等活用しまして情報発信を行ったり、今年3月には地域活動協議会まちづくりフォーラムを開催してきたところでございます。

自己評価と今後の方針ですけれども、地域活動協議会に対する運営、会計支援によりまして、適切な組織運営や会計処理が行われておりまして、今後も積極的な情報発信を継続しながら、住民の活動参加や新たな担い手の確保につなげてまいりたいと思っております。

続きまして5ページになります。「緑化推進事業」となっております。こちらにつきましては、地域活動への動機づけや地域コミュニティの再生を目的に、高齢者の生きがいづくりやつながりづくりとしての地域拠点、活動場所の創出、地域資源の一つであるボランティアの参画、協働による地域活動として、種から育てる地域の花づくり事業を実施しまして、潤いのある美しいまちづくりを進めるとともに、景観の向上により不法投棄や迷惑駐輪の軽減を図るなど、住みよいまちづくりをめざすという目的で実施しております。

昨年度の取組実績ですけれども、種から育てる地域の花づくり事業の実施ということで以下の活動をしております。

年2回地域へ花や苗の出荷をしております。また、そういった活動をしていただいておりますボランティアさんとの意見交換であったりとか、ボランティアさんの募集であったりとかを行っております。その他、花と緑の講習会の実施であったりとか、フラワーサポート勉強会であったりとか、各種の講座、講習会をしてまいったところでございます。

自己評価、今後の方針についてでございますが、区民の皆様が自分たちの手で種から花を育て、公園や道路などに植えることで愛着を深めながら自主的なまちづくりへの参加意識を高めることができております。

また、ボランティア相互の意見交換会やボランティア主体による花と緑の講習会を開催しまして、区民の緑化に対する知識や意識の向上に取り組んできたところでございます。この事業は、区民の自主的なまちづくりへの参加意識を高めるとともに、住民同士のふれ

合いやコミュニケーションが活性化され健康や生きがいがづくりなどに役立つことが期待されることから、今後も引き続き実施してまいりたいと考えているところでございます。

続きまして6ページにあります「区における人権推進事業」でございます。こちらにつきましては、人権問題は身近な問題であるという意識を一人ひとりが持てるよう人権問題に対する理解と認識を深める取組を進め、人と人の豊かな関係づくりから人権が尊重されたまちづくりへとつなげるという目的で実施しております。

昨年度の実績としまして、人権啓発テーマ「違いを認めることから」に沿いまして、多様な人権啓発事業を実施してまいりました。まず1つ目としまして、地域の関係団体から意見を聞く場、情報交換を行う場として人権啓発推進会という会議を開催しております。そして、次に人権啓発推進員と連携・協力をしまして人権週間での街頭啓発などを一緒に行ってまいりました。その次、映画会や音楽イベント、市民向けの人権啓発講座の開催であったり、人権啓発コーナー、広報紙を活用した啓発を行ってまいりました。

自己評価、今後の方針としましては、啓発講座とイベント参加者へのアンケートで、人権の意識は高まったとの肯定意見が91.3%と、多様な手法で啓発を行ってきたことで、区民の意識変化の一助を担っていると言えることから、引き続き多様な手法で人権啓発の取組を進めていきたいと考えております。はい、私からは以上でございます。

【横山福祉担当課長】

いつもお世話になっております。福祉担当課長の横山と申します。

私の方からは「西成区地域福祉推進事業」について、ご説明させていただきます。着座させていただきます。

目的といたしましては、地域に暮らす住民同士がつながりをもち、支え合える地域づくりをめざしているものでございます。取組実績といたしまして、地域活動への参加促進や世代間交流の活性化にボッチャ活動やeスポーツの体験を実施いたしまして、今年度の2月に開催いたしました西成区ボッチャ大会では、約230名と多くの方に参加をいただいたところ です。

次に、個別避難計画の作成ですが、令和4年度からの取組として累計227件の個別避難計画の作成をしております。次に、地域福祉フォーラムの開催ですが、同じ地域で生活する外国人住民とのつながりを作るきっかけ作りとしまして、多文化共生に関するフォーラムを開催いたしました。

自己評価と今後の方針といたしまして、ボッチャ、eスポーツに関しましては障がい者、高齢者、子どもに広がりまして、楽しく参加することが出来る地域活動として定着しつつあります。地域活動への更なる参加促進に向け、引き続き、取組を行ってまいります。

次に、個別避難計画の作成ですが、令和8年度までに累計の300件の作成に向けて継続して取組を行います。次に、地域福祉フォーラムですが、幅広い世代の参加者より高い関心をいただきました多文化共生に関する内容をテーマに引き続き取り組んでまいりたいと思っております。私の方からは以上です。

【得能総務課長】

議題1 令和6年度西成区運営方針の自己評価につきましては以上でございます。よろしくお願いたします。

【小林議長】

ありがとうございます。今の報告に関しまして委員の皆様ご意見はございますでしょうか。はい、お願いします。

【鈴木副議長】

鈴木でございます。いまご報告がありました地域福祉推進事業の個別避難計画のこと、今まででもお伺いしていたかも知れないのですけれども、もう少し詳しくお伺いできたらと思います。この個別避難計画は作成していくのも大事だと思うんですけども、一旦作ったものをやはりローリングしていくとか、モニタリングしていく必要が出てくるのかなっていうのも、思っていて。やはり状況がどんどん変わっていくと思うので、その辺り今の時点では具体的に何か検討があるのかどうか、またやはりこれから大きな災害が起きる可能性がある中で、時期的にも台風の心配もあるので。対象にされる人数もどんどん増えていく状況かなという風に思うんですけども、今の時点で個別避難計画に関しては誰が中心になってどんな形で実施されているのか教えていただけたらありがたいと思っております。

【小林議長】

はい、回答をお願いただけますか。

【横山福祉担当課長】

はい、個別避難計画ですけども、対象になりますのが要介護3以上の介護が必要な方等を対象に名簿を作成し、今、西成区の社協の見守り相談室とも連携いたしまして、個別の避難の対象になる方の個人情報の取扱等の確認を行いながら対象名簿を固めている状況です。

個別避難計画につきましては、その中から、要介護5の方で、単身で居宅生活をしている方を優先度の高い方ということで作成の対象として、今取り組んでいるところですけども、今、お話しいただいたように対象者の数につきましては変動がございますので、今300件を目標に取り組んでいますけれども、これは4年度に作成したときの数字です。で、現状変わってきている数字に対しても、今後対応していくということを引き続き行っていくということになっております。作成しました個別避難計画についての、モニタリングというところにつきましても、当然対象になる方についても介護の状態、ご健康の状態も変わってくる場合がございますので、支援いただいている方々との日々の調整、連絡体

制を取りながら、当然状況に応じた対応を考えていく必要がございますのでそういった対応についても引き続き行っていきたくて思っております。以上になります。

【鈴木副議長】

ありがとうございます。

ケアマネジャーの方と関わってらっしゃるということですよ、ご本人のご担当のケアマネジャーさんと。

【横山福祉担当課長】

そうですね、ケアマネジャーの方を中心に関わって頂くことも多くあります。

【小林議長】

はい、この件に関してでも構いませんし、それ以外の事でご意見ございますでしょうか。

【小林議長】

この資料1-1で、西成区のイメージどれに近いですかね、に肯定的な回答が前年度56%で令和6年度は47%、すごく下がっているのにビックリして、この1年でそんなに悪いことが起きたのかなっていう疑問があるんですけど、これって理由ってあるんですかね。分からないですかね区民アンケートでは。ですよ。そのアンケートの方を拾ってみたら、結構回答が高齢の方が多くて、入手している情報のほとんどが広報紙が1番高かったんですよ、今ホームページは見れるんでまた良かったら委員の方にメールで後日流していただければと思うんですけども、回答者の内70代が26.4%、80代が17%でかなり多くなっております。60代から80代以上の方で半分以上いってるのかな？20代で5.9%、30代7.6%、40代7.8%ってことで結構若者の層が比較的来られてないのかなと思っていて、これにあたり年代別にどう違うのかなっていうのをみたら、暗算での計算ですが、肯定的なイメージを持っているのが30代の方49%、40代の方52%といい印象を持っているのですが、50代、60代の方が38%で中年代の方が低いのかなと思ったりしてます。若い人のアンケートはなかなか取りにくいんですかね。そもそもあんまり協力的ではないのかなと思うんですけど、これでは偏った結果で評価されるのもちょっと違うと思うんですけど、どうですかね。

【得能総務課長】

総務課の得能でございます。区民アンケートのご質問ですが、また後ほどアウトカム指標のところ、若干触れたいなと思っている所なんですけれども、現在、区民アンケートにつきましては、住民基本台帳に基づきまして区民1500人を無作為抽出し実施しております。令和6年度は、1500人に出しまして回答率が36%、550人弱の方から回答がいただいております。無作為抽出でございますので、なかなか難しい所もあるんですけど、傾

向としましては先ほど議長が仰いました様に、回答される方の分布図とですね、年齢別人口比がなかなか合っていない、議長がおっしゃる様に、高齢者の方が比率的に高くなっているというような傾向がございます。若年層という部分もあるんですけども、18歳以上の方を無作為抽出で実施しておりますので、実際のところ難しい部分はまだあるかと考えております。

【小林議長】

アンケートは手紙で届く形になるんですか。

【得能総務課長】

そうですね、手紙で送らせていただいている形になります。

【小林議長】

回答は完全に紙ベースですか。

【得能総務課長】

回答は両方。紙とオンライン両方です。

【小林議長】

ありがとうございます。安心して子育てできると回答した方の中で子育てしている方がほとんどいないんですね。子育てしてない方84.8%なんで。難しいです。

【宮尾委員】

宮尾と申します。普通の住民なんですけど外国人の方が多くなってきてね、にぎわい部会としてはいい事はいい事なんですけれども、ごみ問題とね落書きは日本人がやっていると申すんですけれども、やっぱりその今の関連なんですけれども、子育て出来ないってその辺りもあるんじゃないかなと思います。というのもこないだ何かを見た際に西区と西成区が住民の人数が多くなっているんですけども、子育てしようと思うと西区行ってしまうと、そして西区の方が子どもがいっぱいで、驚くべき事に西成区の場合は小学校がなくなってますよね。統廃合で。ところが西区では新しく分校を作らないといけない程大変だという話を聞いて、知り合いが西区に住んでまして聞いてみたら公園が違うと言われた、言ったら悪いんですが西区の方が綺麗で、市の公園は大阪市がやってるので差別はないはずですが、なんとなくごみが多い落書きが多い、タバコは残ってる、外国人の方も西区にいる。若い方が来てくれるのはありがたいんですけども、なんとなくイメージ悪いのは一人の住民として偉そうに言えないんですけども、西区の公園は綺麗で小さい子を遊ばせられる、私も良く公園等に行くが西成の場合はあんまり子育て世帯が見当たらない、子育て世代がそもそもいないかもしれないけど。この間、西成区は単身者が多いと、お年寄りが多いということは子育て世代がいらないから魅力のあるまちづくりは難しいんだろうなと思

うし考えたら年を取ると物も買えなくなるし、それに比べて子育て世代は需要があるという事は商店街の活性化などもお年寄りよりも子育て世代の方が影響があると思われるから、子ども出来たら出ていく、という流れが良くないと感じている。その中で何故出て行くのかという要因の一つとして公園等の清潔感もあるのではないかと思う。西区と比べて子どもが遊んでいない点についても安全面での不安があるのかなと思っている。以前に公衆トイレの話も出して下さったので、個人的に近所の公園のトイレを確認して綺麗にさせていただいているのも、わかるんですけども、その辺りの住民の意識の違いが今のパーセントに出てきているのかなと思っている。

私、この会に参加の希望を出したのは商店街がシャッター街に何故なっているのか疑問に持ちまして来させていただいたんですけども、結局自分で考えたのは購買力のある層がいなくなったっていうのと、その層の方が忙し過ぎて商店街の開いてる時間には買いに行けないという事があるんだろうなとみているんですけどもね。それだけ社会が変化していて昔と違うというのは分かるのでいいんですが、やっぱりせっかく、いろんな意味で代表もやっていただいていますし、新今宮の所も綺麗になっていますし。長年の大阪市からいろいろあったあいりん地区の所もやろうとしているところで、ありがたいけれども地元の普通の公園などにもうちょっと注力して欲しい。安全だけだと西区と比べると違うなど感じる。あくまで感想ですが、一応こういった区政会議に来させていただいているので、一市民としてその辺りを行政の方や市議員さんもおられるし、私一人ではできないしそれぞれが感覚を磨くってことしか出来ないと思うんですけどもね。そこから商店街のにぎわいなどにもつながるかも知れないし、今、いろいろ民宿の問題もありますが外国人の方だけのせいではなく日本人がそもそもごみを捨てているからいいやろっていうところもある気もするんですけどね。すいません長々と申しましたけれども、やっぱり区民一人ひとりの公共の場での行動、年寄りの方が割と個人的にも感じているが、割と活動できるのでアンケートでもいっぱい年寄りの方が参加しているということは、やっぱりそれなりに何とか自分の範囲でやりたいと思うところがあるんじゃないかと思っている気がするんですよ。昔の働き手の世代は今忙しすぎると思います。すいません勝手な理屈作りましたけれども、以上です。

【小林議長】

ありがとうございます。今の宮尾委員のご意見に対して何かありますか。

公園に関しては公園愛護会が普段掃除していると思うんですけど、そういうわけではないですか。

【北野市民協働課長】

市民協働課長の北野でございます。

公園愛護会は各地域のボランティアというか、そういう団体にやってもらっている。先ほどありましたが、公園については建設局なりが定期的に清掃とか入っていると思うんですけども、5月にですね、西成区の事業におきまして、西成大そうじっていうのをやった

んです。そちらは各地域の方で自主的に清掃の方をやっていただくということで、我々もいろいろと回らせていただいたんですけれども、公園っていうのは日々ね、その日だけではなくやっていただいておりますすごく綺麗な公園もありますし、実際その日もたくさんの方が集まられて、ごみいっぱいになるくらい清掃頂いていた。そういう行き届いている所は確かに綺麗ですけれども、行き届いていない所にはポイ捨てなどがありごみが多くなっているのかなと思っていますが、年々昔に比べてマシになっているのかなとは感じておりますが、これからも区役所としましてもそういった活動を続けてまいりたいと思いますので、ご協力もいただきたいと思っております。

【稲嶺区長】

私も4月に来まして、西成区のまちをいろいろ見て回っております。すると、あの11年前のあいりんエリアを中心に担当していたことがありますので、その感想とそれから、西区は区長をやっておりませんが、中央区の区長もやっておりましたので、ある程度状況に近いところがありますので、感想を申し上げますと、子ども達の数が増えているというのは西区もそうですし中央区もそうです。今、逆に学校を作ろうかという話を中央区で進めておまして、というのは人口がですね、中央区が出来たのが平成元年なのですが、その時の人口が56,000人ぐらいで、今は117,000人ぐらいと倍ぐらいになっております。何でそうなったかと言いますと、タワマンが立ったからですね、昔百貨店やった所が、今、タワマンになっているとか、古いビルを立て替えてタワマンにしているとか、という事がありますので子どもの数がここへ来て一気に増えているんですね。そうすると、逆に課題も出てきます。学校が狭すぎて増築を繰り返しており、小学校で言うと、走る距離がなく50m走が計測出来ない。西成区に来ますと、逆に子どもの数が減ってきているということで、ある種グラウンドはゆったりと使っているし、校舎はゆったりなんですけど、やっぱり少なくなってきましたと、どうしても地域のにぎわいがなくなってくるという、仰るとおりなんですけどね。私こっちに来た時に西成区の強みたくさんあるなど、ただやっぱり、そこから離れて子育てするというのが、都市伝説なのか実際にそうなのかというところがあって、かなりのそういう実態はあるように聞いています。

これから100周年を機に西成区の目標ではあるのですが、西成区で子どもを産んで、育ててもらおうというところは、やっぱりすべては子どもたちのためにというのはそういう願いもあります。そのためには、西成で産まれた方育った方が、やっぱりここは良いよね、ここに住み続けて子ども産んで育てようかというところを、まず共有していく必要があるかなと思います。実際に西成って暮らしやすいところがあるんですよ、この間、100周年記念事業の時に少しふれましたけども、ある幼稚園に聞きましたところ、お母さんが西成区出身でお父さんが他区出身の方が、どこで子育てしようかようという時に西成区が良いよね、おじいちゃん、おばあちゃんもいますし、実はあの西成で子育てをしようという方もいるんですね、それは地域で見てくれる地域の方とか、おじいちゃん、おばあちゃんがいたらわざわざ親戚、誰も見てくれる人もいないところで保育所に預けて子育てしようかというのなかなかしんどいところがあるし、アパート代、地価も高いですから

ね。また、特区構想の中でいろんな子育ての教育的予算をつけていまして、実はフラットに考えると、なかなか、西成は子育てを実はしやすい所なのですが、イメージがどうしてもついてまわるので、暮らしにくいのではないかと、というような話もあります。ただ、やっぱりそこは、昔の記憶が西成区民自身が持っていたり、周りの方々でも持っているで、じゃあ、西成区でアパート借りて、土地買って、家構えて住もかっていうのがどうしても躊躇（ちゅうちょ）される方がいるのでそこを変えていきたい。西成区から少し外れますが、新今宮駅の北側に星野リゾートがOMO7を作りました。リゾートホテルを立てるとどうだろうと、大阪の外の方で思う人がいる、また中国の方も西成に興味を示して西成の土地建物を買っている、なのでフラットに考えると、非常に魅力的なところではありますが、昔のマイナスのイメージが先行しているので、イメージを払拭していきたい。

今、仰っていただいたように、公園を綺麗にしたらどうかなど、それも非常にやりがいがあると思います。昔の西成区はやはりタバコの吸い殻やごみが落ちていた記憶がありましたが、10年以上経って戻ってきたところ、そこは大分綺麗になった印象がある。四角公園があんなに綺麗になるのだなという感動もありました。そういったところで、段々とまちも綺麗になってきているので、そこを皆さんに共有してもっと一気にまちを綺麗で住みやすい安全なまちにしていきたいと思っておりますので、また、皆様のいろんなご意見、辛口なご意見も大歓迎でございますので、いただけたらと思っております。

【小林議長】

ありがとうございます。はいでは庄野さん。

【庄野委員】

庄野です。先ほど宮尾委員の公園の話もありましたけれども、西成区はどうしても緑が少ないイメージがあります。それが住みたいまちにならない一つの原因であると思うんですけども、そういった中で建設局が2009年に緑のウォーキングマップというものを作成しまして、各区24区とも作っているのですけれども、西成区に関しても約8.8km、2時間少しで周るようなマップになっているのですけれども、その中で実際マップはあるんですけども、マップの配架とか、案内の掲示物が無いとか、建設局が所管するところで西成区の管理ではないんですけども、そういったところをタイアップして、緑のウォーキングが出来るところを再度確認していただいて、作っていただけたらなと思います。

特に、その散歩道の中で天神ノ森天満宮などは、とても良い施設で、区長も行かれたか分からないですが、創建約600年になるので、大阪市の指定樹木、大きなクスノキ、樹齢年数が400年の樹木が約13本、是非ともこういったところを宣伝していただいて、市外からのお客様や市民に楽しんでいただいて、憩いの場としていただきたいと思っております。そういった事を建設局とタイアップして是非ともよろしく願いいたします。

【小林議長】

ありがとうございます。上田委員お願いいたします。

【上田委員】

はい、上田です。

私は、文化観光振興事業の事でお話ししたいと思います。私も宿泊業を手掛けているんですけども、本当に山王や太子、萩之茶屋エリアは、外国人の方も含めたくさんの旅行者の方がいらっしゃっています。この所は、ホテルの方で1か月滞在する、長期のプランを辞めるというホテルが続出しています。それは、日割りで来て泊まっていただく方が儲かるからという、話で聞いております。ということはですね、観光客が西成にたくさんいらっしゃるけれども、数日泊まって帰って行かれるという形の観光客がどんどん増えていく、という事はオーバーツーリズムやただ泊まるだけの街になってしまうということですね。

ここで考えている文化観光、西成区に泊まって体験出来た事とか、住民との交流等を通して、また戻って来たいまちになることが重要なことかなと思うので、そういった交流や体験を生み出すようなことを行うべきだと思う。また、今現在、在住されている外国人の方も、ある時期だけ住むのではなく、本当に西成区に住んでもらうためには、こういった意見を伝える場にも外国人の方も参画してもらうようにして、その方たちの声も聞きながら、多様な声を聞きながらどうやったら西成のまち「ええ、まちやな」って言えるのかっていうの考えていきたいなと思いました。感想のような意見で申し訳ありませんが、以上です。

【小林議長】

ありがとうございます。

このご意見もしくは庄野委員のご意見に対して何かございますか。はい、ありがとうございます。

【宮尾委員】

よろしいですか。

【小林議長】

はい、どうぞ。

【宮尾委員】

すいません。私、堺で仕事してまして、退職してから西成区に帰って来たんです。あの、ビックリしたんですよ。先ほど言ったように、商店街がシャッター街のように感じた。自分で考えると、当時は商店街に買い物に行く時間が無かった、今だからこそ、ぶらぶら出来るけど。

2点目としては、仰ったように海外の人がめちゃくちゃ多い、コンビニの店員さんも海外の方が多いい中で、上田委員が仰ったように、そういった方達にも居ていただく方がいい

のではないかと、私は個人的には思うんですけれども、その方達もある程度小金持ちじゃないけど、子どもが出来たら西成区を去っていく。何故かは知りませんが、見ていたら新しいマンション等が、1人暮らしのマンションが多いのかなと思ってます。ワンルームからの部屋が多い、で、ずっと町会に入ってるんですけど、ずっと人がおらず今は2人だけって感じなんですけど、マンションの人等も全然来られないなって話で、私としても何もしてこれてなかったんで、あんまり言えないんですけれども、私個人としても、幼なじみとかは全員西成区を離れている。昔はおじいさんやおばあさん世代もいたし、親世代もいたし、子どももいるまちだったんですけれども。今は外国人の方とかが、一人部屋が多いし便利なところだから海外の方がたくさん来て一人で暮らしている。先ほどおっしゃられていたように素通りするまちになっている。こんなに人がいっぱい、海外の方も優秀な方がいっぱい居て納税もしてくれていると思うんですが、アンケートは70代とかその辺りの年代が多いことを踏まえて思うのは、アンケートについて言葉、海外の方でも分かりやすい言葉を使うなど、行政としても留まっていたくようにつかんでほしい。そういった方たちが、地元で定着し根付いたら学校もなくならずにすむし、多文化共生を普通の公立小学校でめざせると思う。またそれも魅力となり日本人の方も寄ってくるかもしれないから、待っていても仕方ない、去年の区政会議から、参加させていただいており、言うだけなんですけれども、意識を転換して外国人ばかり嫌やとか高齢の方は良く思っていると思うんですけれども、もう仕方ない子育て世代もいないし、若い世代は子どもも居ないので、外国人の方々が西成区に定着出来るよう行政も工夫していく必要があると思う。引き続き在住してもらうための工夫が必要ではないのかと思う。私が子どもの時よりまちは確かに綺麗ですけど、遊んでる子どもがそもそもいないなら、しょうがないし、街中を歩いていて廃校ばかりすごいなと思っております。以上です。

【稲嶺区長】

はい、少し私もしゃべりたくなりました。

このあいだ、とある小学校の110周年のイベントに参加いたしまして、75歳の方とお話しして、その方が小学校の生徒だった頃には小学校で生徒数が2,000人いたが、今は150数人になっている。極端に西成が一時労働者のまちということで、日本のいろんな建設業を支えていた時期と重なるところもあるんですけども、さすがに2,000人から150人は極端だと思いました。

どういう風に変えていくか、地域でよくあるのが担い手不足、町内会に誰も入ってくれないこれをどうしようか、毎年毎年、役員の年齢が1つずつ上がって行ってですね、また一方では、先生方の働き方改革という話がありまして、出来るだけ先生方、校長先生も含めて町会行事に呼ばないでね、という話も出てくるんですね。そうすると、どんどん町会行事がしんどくなって来て、子ども達の数も減ってきてどうしようかということになって来るんですが。

その中で一つアイデアがありまして、前の区で一部やっていた中学校もあるんですけど、子ども達を行事に参加させる。中学生くらいから一番は防災訓練、そのまま訓練して

いる事が役立つ、もう一つはお祭りの時にスタッフとして参加してもらい、お客様ではなくスタッフとして焼きそば焼いといて、金魚すくいやっという、餅つき大会で餅ついて餅こねてね、これをお客様じゃなくスタッフとして参加してもらいと、町会の行事の回しかたが見えてくるので、必要性も分かるんですよ。やったら面白い将来自分達はここでこんな楽しい経験をしたので、住み続けようかとか、結婚したら帰ってこようかとか、子どもも育てようか、なんやったら町会に入ろうか、出てくるんですよ。

そこそこいい年になってから、ポチポチ町会に入ってくれませんか、皆さん経験あるかもしれませんが、現役世代を町会に入れようと思ったら至難の業ですよ。やった事がある人が、そのままちょっと転居したからそっち側の、町会に移りましようかって言うのはあるんですけど、初めて町会に入ると、何で入らなアカンのってなるんですよ。けど、中学時代にやっって面白かったやんとか、登下校の見回りもしてもらったやん、あのおっちゃんら、おばあちゃんら、そこから入っているとスッと入りやすい。経験者なので、だから、これから町会とか地域では早期教育、大人になってから入るのではなく小さい頃から町会ってこんな事をやってるねんっていう事を、就学前はお客さんですけど小学校入って中学生になったら、スタッフとして入る、それを校長先生が表彰するんですよ。町会行事に参加した地域の社会参加頑張ったねって、区長表彰も含めてやりたいと思っているんですよ。そこを発信しないと、区として学校としてどういう方向にベクトルを働かせているのかがわからないんですけど、表彰状をもらうという事は良しとする文化があるという事ですから、そんな事をしながらここは徐々に地域力が高いところとか、子どもが育ちやすいところとか、そういった風に変えて行きたいなという風に思っております。

元々西成は、アツイところやと感じておりますし、実際そうですし。そしてそのアツイところを次の世代に上手にバトンタッチするためには、英才教育で幼児教育からスタートという風に思っておりますので、今日いただいた率直なご意見、やっぱりしんどいところもたくさんあるので、ピンチをチャンスに変えていくやり方を、皆様方からいただきながら進めて行きたいと思っております。「区長なんか言うてるけどそんなん出来へんで」なのか、「いやいや面白いから一緒にやろうや」と言ってくれるのか、皆さんと共に意見交換させていただいてありがたいと思っております。

【小林議長】

はい、町会もでも、私、5年間で2回しているんですけども、若い人を誘っても断られて心が折れているイメージで、待っていても誘いに来てくれないっていうのも、あるんです。

正直、町会のシステムに限界が来ているなというのも思います。閉鎖的な町会もあると思いますし、閉鎖的にも関わらず、それなりに行政から権威・権力を与えられているのも、おかしなところやなと感じる部分もあったりするんで、かと言って町会というか地域の自治組織というのは、絶対に必要と思っているんでね。とりあえず町会に入りたいけどお誘いがもらえてない。どうですか皆さんもうそろそろ次にいった方がいいですかね。は

い、高橋委員どうぞ。

【高橋委員】

産業会の高橋ですけれども、今言うように西成区をどうするか、僕らの西成青年協議会というの、産業会のなかにあるわけですね。まあ、西成区産業会の青年協議会っていうのも衰退に近いところもあるんですけれども、それが大阪市が青年協議会を産業会という、親があって産業青年経営協議会というのがあって、それを27地域で束ねた何社一社であったり27で構成されているわけですね。青年経営者協議会を大阪市が行政権を切ってしまった、行政権を切ったのに会は存続されているんですよ。悲しい事に全国いろんなところにありますね。会っていうのは、大阪では27、区の中に協議会があるわけですが、川崎とか、京都とか神戸とかいろんなところにあるわけですよ。だから皆さんの区や市の毎年一度、競合会があるんですよ。他の市は皆市長が出て来ます。では大阪を代表して誰が出て来るかという経済産業会の方が代表で出ている、大阪の市長は出てくれないです。そういう実情を踏まえて言うと我々西成区だけで、一生懸命頑張った所で、だからもっと大阪市に言って欲しい。大阪市の吉村などにももっと働きかけて。

これだけ万博を改良して4月13日に始まったわけですよ。でもその前に何をされたかという、はい御堂筋をしましよとかいろいろとされているわけですよ。このその評価はどうですか。今万博を開いて、万博の件も1つですけども大阪市の御堂筋をやってね、この地下鉄を浪速区から持って来て西成に来られるわけですよ。素晴らしい事をしたわけです。本来なら、だけど今それは我々西成区で活用されていますか。新今宮を本来なら活性化ならないといけない。改良されて、そういう事を皆みせられてね「ハイハイ何かしましよとか、何とか発展しましよ」とか切れたら西成区をどうされるかっていう問題点がこれからも続く。「いやいやこれからカジノが出来ますから西成に入って来ますよ」とかそれはいい話ですけども、実態がどうなのかという話と、西成区として何をすればいいのかという話に入ってもいいですけど、誰もやってくれないですよ。大阪市も、国も今西成区自身だけでこういう会を開いているけど、結果的に何が生まれるのかを我々自身が立案しないといけないんですよ。

私の考えですよ。例えば東京ですね、銀座、中央区いろんなところ例えば101とかを再開発をしていて素晴らしい。昼間も電車で人がいっぱい、比べて大阪は昼間に電車に乗ると誰もおらずガラガラ、この違いは人口の違いもあるけれども、行政が自分達の街を活性化して作っていくわけですね。そこから市が乗ってきて国に要望して、西成区の場所を選定して行ってから初めて、こういう話が成り立って行くんですよ、立案としてね。皆さんが我々団結してね何か1つコンセンサスを西成で作って、例えば今一番良いと思う場所ですね、ない事はないんで例えば新今宮駅。勝手に「大阪市が何を決めてんのっていう」我々の街じゃないですか西成は、例えば天下茶屋もあるじゃないこれだけ広大な敷地あるじゃない、ハルカスができたりそれなら何故西成には出来ないのか。それなら西成に作ったら良いという。中央区に変わったらですけど、西成中央区になったらですけどね。我々天下茶屋でもそれに負けないような発想を取り入れて街の活性化を目指して行かないと何も進

まない。人口の減少を食い止める。一生懸命今学校をやっているわけですよね。一貫校という西成の。そういう事を我々が行政に立ち向く開発を経済活性化西成区は発信しても良いじゃないかと思う。何故かというところの万博で力のついた新今宮を皆きているわけですよ。この動線がそれがやがて西成区が難波を抜く可能性もある。再開発するかしないかって問題が出てくるんですけど、それが大阪ではほとんどしないですよ、例えば心齋橋だって中央区だってね再開発なんてやっていませんよ。本来なら東京なんかは皆再開発をすごくしている。東京はすごいですよ知らないだけで見てないだけで再開発費で何兆円とお金があるわけで、東京は世界の10都市の中に入っているから大阪と比べると難しいけど、その中で西成区というものをもっと発揮しないとね、今の時代せっかく万博が来て駅もそこに出て、そんなところで医療改革するじゃなしに、もっと我々西成区民のために区民と人が西成区に入って来られるよう、政策を作るべきじゃないかと私の考え方はそうですけどもね。また意見をくださいよろしく願いいたします。

【小林議長】

貴重なご意見ありがとうございます。

よろしいですか。そろそろ次の議題に進めさせていただいてもよろしいですかね。

続きまして議題2の令和7年度西成区の運営方針について事務局の方からご説明をよろしく願いいたします。

【得能総務課長】

総務課の得能でございます。

お手元の資料の資料2についてご参照お願いしたいと思います。

運営方針のアウトカム指標の見直しにつきまして、簡単にご説明させていただきます。資料2をご覧ください。資料2大丈夫でしょうか。はい。昨年度、本紙の情報公開審査会の答申におきまして、先ほどから出ていました区民アンケートの調査というものはですね、統計学的な調査ではないと、いう指摘を受けました。統計学的な調査ではないということで、区民としての代表性を有していないというような指摘でございます。統計学的な調査という部分に当てはまらない、どういった部分が当てはまらないかといいますとですね、ちょっとまあ端的にいきますと、先ほどちょっと若干申し上げましたが、回答率がですね、36%。ということで低いということが一つ。でもう一つがですね頂戴致しました回答の中でのですね、年代ごとの回答数はですね、いわゆる人口比、西成区の人口比と乖離（かいり）があるということですね、まあ端的に言いますと、こういった事情によりまして、統計学的な調査ではないというようなご指摘を受けております。本市のですね、方向性と致しましては区民としての代表性を有していないとの指摘を受けました区民アンケートの調査結果をですね、運営方針の目標達成の判断材料、これがですねアウトカム指標というんですけど、アウトカム指標として使用することは望ましくないという結論に至りました。区民としての代表性を有していないとの指摘を受けた区民アンケートの調査結果に基づくアウトカム指標につきましては、この資料の2のです

ね、2の左から3つ目のですね、ところにございますアウトカム指標（従来のもの）、こちらがですねこの区民アンケートの調査結果に基づくアウトカム指標となっております。でまたですね、今回新たにご提案させていただくアウトカム指標につきましては、その横の右側ですね、箱の中にございますちょっと太い、太めの線で囲っておりますこちらの方の新たなアウトカム指標（案）という形になります。当部会と致しましては令和7年度運営方針のアウトカム指標の見直しを進めることと致しまして、当部会を含む各部会で区政会議委員の皆様にご意見を頂戴いたしまして、9月頃に開催予定の第1回全体会におきまして、このアウトカム指標の改定を図ってまいりたいというふうに考えております。このですねアウトカム指標につきましては2つございましてですね、ここに書いてございますように。それでは詳細については担当の方から説明させていただきますので、よろしくお願い致します。

【式地総合企画課長】

総合企画課長式地でございます。

新たなアウトカム指標の案にございます1つ目の部分でございますが、書いてございますように西成区文化振興観光事業の情報発信ということで、西成区のホームページの方に西成区の魅力を掲載するホームページの項目としてですね、観光歴史というホームページのトップページの方に項目がございます。こちらをクリックしていただきますといろいろな情報発信がされている状況がございまして、こちらをですねいろいろと見ていただけるという状況が増えればですね、それぞれの取組がにぎわいにつながっているという、そういう根拠にもなるのかなといたるところですね、指標としてはこのホームページということで、これが絶対的かということと言うと、ちょっといろいろありますけども、一応可視化できるような指標としてはホームページの閲覧数というところで、指標を設定させていただいてるところでございます。こちらについては以上でございます。

【横山福祉担当課長】

はい。2つ目の方ですけれども、地域福祉フォーラム参加者へのアンケートで、このフォーラムが身近な地域に見守りや助け合いなどのつながりづくりに役立つと思うと、回答する割合ということで設定させていただいております。内容につきましては先ほど取組としてご説明させていただきました地域フォーラムで、昨年度でしたら多文化共生をテーマとしまして実施した内容になってございます。今年度も地域フォーラムの内容でアンケートを実施しましてこの内容でアウトカムの指標を策定させていただければと思っております。以上でございます。

【得能総務課長】

以上でございます。よろしくお願い致します。

【小林議長】

はいありがとうございます。こちらに関しまして皆さんご意見はございますでしょうか。

はいどうぞ。

【上田委員】

はい、重々これを指標にする事が、指標にならないと思っただけの指標だと思うんですけども、やはり今打ったんですが、西成区文化観光振興事業、検索もかけました。その中でこのページを見て行こうっていう風にはなかなかならないかなっていう気がしまして、実際これを指標としても欲しいと思っている数字は出てこないと思うんですね。本当に行政がですね、数字というものにどうしてもそれしか確かなものがない風に思われがちなのもよく分りますが、近年数字だけではなくもう少し質的であったりとか、数字を読み解く意味を付随する形で指標を考えていけないのかなっていう考えがある。だからと言って何かいい案があるわけではないんですが、ちょっともったいなさすぎるように感じました。

【小林議長】

ありがとうございます。

また皆様も観光歴史のページをご覧いただければと思うんですけど、やっぱり役所のホームページの1ページだなという印象が強い、もちろん達成出来たらなと思うんですが、そんなに更新されてない項目も多いですね。

【上田委員】

そうなんですよね、そして経営課題が人と人がつながりにぎわうまちなんですよね、ここに対する指標がこのページなのかっていうのがちょっと気になった。

【小林議長】

どうですかね。

【式地総合企画課長】

おっしゃるとおり、なかなか指標としてはいけてないと、言われても仕方ないところがありますけども、一旦我々もですねいろいろと検討した中で、この指標でいけないかということでお示しさせていただいております。いろいろとまたこれからですね、いろいろやるなかで、また新たな指標というの、7年度は一旦これをさせていただきますけども、次年度以降とか年度途中からですね、また新たなものが設定できるような指標がまた見つければですね、途中でも変えるとかいうことも、多分可能かなと思いますので、引き続きちょっとまた検討させていただきたいなと思ってございます。以上です。

【稲嶺区長】

ちょっと、あの。私の思いを少し言いますと、従来のコンテンツをそのままスライ

ルアップさせようというような、そういうことでなくて、これをどうしたら閲覧数上げていくかというのがミソになりますのでね、中身を相当変えていかんと上がらないだろうと。実は中央区にいてるときに、民間とタイアップして大阪中心というページを立ち上げています。これはもうコロナの時には惨憺（さんたん）たる、要はイベント情報、イベントがない訳ですから誰も見に来なかったんですけども、その時に海外で中国で物産展やっているどこやったかな、上海だったかな、向こうに持って行ってそこで広げてもらったりですね、要はコロナの時には来られへんけどコロナ収束したら大阪来てねっていうコンセプトで作っている動画があります。今復活していますから、もうたくさんの方が見に来て、これ見てどこ行こか、近々どんなイベントあるんやろ、つてのを見ていただいているんで、西成もですね、やっぱりその中身を充実させてその結果として閲覧数が増えるということであれば、僕は十分アウトカム指標になるのかなという風に思っています。

さらに、もっと大阪市内地域の皆さんとのタイアップ事業でよりふさわしいアウトカム指標が今後出てくれば、もちろんそちらに変えることはやぶさかではないので、今回のその従来の区民アンケート、これ24区ともどこともほぼほぼ同じ状況ですけども、やはり統計のアンケートの取り方がですね、やっぱり偏っている部分があるんじゃないかとか、十分、区民の皆様の見解を数として、つかめてないんじゃないかという、基本的な問題を指摘されていますので、今もがいているというところですね。より実態に即した、我々の施策がほんとにどういう風に反映されているのかというのが、適切に反映される指標、これからも皆様方とも意見交換しながら、よりバージョンアップを図っていったらなという風に思っています。ちょっと補足になりました。以上です。

【小林議長】

ありがとうございます。よろしいですかね。

全然関係ないんですけども、住みます芸人っていうのはずっとあの人で進んでいくんですか。誰が選んでいるんですか、大阪市西成区の住みます芸人っていうのは。

【事務局】

吉本興業です。

【小林議長】

吉本興業ですか。

なんかねずっと言いたかったんですけど、金属バットのトモヤスとかも西成に住んでいたらしいですし、バッテリーズのエースさんも西成の出身だったりするので。今観光のページを見ていたら住みます芸人のページがあったのでちょっと気になって。リクエストはさせてもらっても良いんですかね。

【事務局】

はい。

【小林議長】

必ずします。

【稲嶺区長】

比較的、若手芸人を地域で育てて、育ててもらおうという狙いもあるので、いきなりね、うちところにもミルクボーイ来てやって、もうブレイクした人もう一回ということにもなりませんので、どんな若手芸人なりを育てていくか、あるいは西成にフィットした人をみんなで応援できるような、ということかもわかりませんのでね。また皆様方がなんとなく世代があり、次の人くるってようなタイミングがあれば、そこは伝えていきたいし共有したいと。

【小林議長】

個人の見解もいろいろあると思うんですけども、個人的な希望を言いました。ほか、アウトカム指標につきまして何かよろしいですかね。はい上田委員からも意見が出ましてその意見もくみ取っていただきながら、最後ご検討いただくという事でよろしいですか。それともこのまま通す形でよろしいですか、どうされますか今の区長のご説明でご納得いただけましたか。

【上田委員】

とはいえ、経年で取っていくっていうのは必要なものだと思いますよね。毎年毎年変えていたら一体なんやねんということになりますから、そういう意味では今これを考えたらっしゃるっていうことであれば、この形を何年間か続けていただけたら良いと思うんですけども、もしその補助指標とかその数字をどのように読み解いていくかということもですね。積み重ねておけばまた変わっていく際に役に立って行くと思うので、何が補助指標になるかという、コンテンツの数が増えたとか、そういう他の部分の数字も追いかけてみてはどうかと思います。

【小林議長】

ありがとうございます。

では、はいどうぞ。

【宮尾委員】

宮尾です。

西成区住みます芸人なんですけど、実は人情マガジン西成の、私編集員ちょこっとやらせていただいている、その中でかなり、私ぽこっと入っているだけなんですけど、しっかりと活動していただいている気がするんですよ。それ一応いうとかな悪いなと思って、今いうただけなんですけど、銭湯でやってはったりとかね、ユーチューブでいろいろやったり

とかね、歌も作られたりとか、西成区民まつりでは、たすきつけて、いつもぶらぶら。あ、違う。ぶらぶらじゃないわ。ちゃんと参加していただいていますし。なんかの会議でも司会していただいていますし、あれはギャラあるんかどうかわかりませんが、なんかやってくれるので、そのあたりも活動されているので、一言ちょっと言わせていただきます。それだけです。

【小林議長】

はい、僕のあくまでも個人的な意見であれなのですが、予算とかって。

【稲嶺区長】

住みます芸人をね。活用するというか。すでにあるコンテンツで今言うたように育てるといふ、また活躍しているやつを周知するということでね、本人のスキルも上がるし、そうすると西成の芸人面白いやんかと、西成の街もイメージアップになりますんでね。そういう意味では大事に育てていく。どんな活動しているのって、業者側からもいろんな形で発信をしたいというふうに思います。ポテンシャル上げましょう。

【小林議長】

ありがとうございます。ではまた修正の希望という事でよろしいですか上田委員。でははい再度見直しをよろしくお願いいたします。区役所から提案のありました議題は以上になりますが続きます、その他何か事務局よりございますでしょうか。

【得能総務課長】

総務課の得能でございます。本日の資料の中にですね、令和6年度第3回全体会、令和7年3月14日開催の際のですね、委員の皆様から頂戴いたしましたご意見・質問等それに対しますこの考え方と回答を記載しております。こちらをお配りさせていただいております。また同じ内容をですね、区のホームページにも掲載しております。参考資料につきましてはご紹介のみとさせていただきますのでご確認いただきますようお願いいたします。私から以上でございます。

【小林議長】

はい、委員の皆様よろしいでしょうか。はい、上田委員よろしくお願いいたします。

【上田委員】

このアンケートのところで、地域福祉のところなんですけども、地域住民としての外国人についてという表記があってですね、この書き方をした時に、地域住民としての日本人についてとここに書かれていたらちょっとやだなという気持ちがあって。地域住民としての外国人この言葉がちょっと嫌だなんて思います。

【小林議長】

言われてみれば地域福祉の観点において外国人についてはどういう話なのか見えないですねこれを良く見ると。どういうかたちなのかももう少しイメージみたいなのを教えていただいてもいいですか。

【横山福祉担当課長】

福祉担当課長の横山です。フォーラムの内容ということでいいますと西成区在住の外国人と日本語での交流ですとか、外国人に伝わるやさしい日本語というのはどういうものか、というような内容で講演をいただいた。フォーラムの中では日本にお住まいいただいている外国人の方も登壇いただいてパネルディスカッションを行っていただいて、普段どういったことを感じながら生活されているのか、ということも踏まえていろいろディスカッションしていただいた内容を、ご参加いただいた地域の皆さんと一緒に考えていただいたという内容にはなっております。今お話ししている表現のところについては、今、西成区在住外国人という表現等も使っているところはあるんですけども、どういったかたちで表現を整理できるかということも踏まえてまた変えられるところがあれば検討したいと思っております。

【小林議長】

はいありがとうございます。要は、多文化共生的な意味という事で良いんですよね。

【横山福祉担当課長】

はい、多文化共生です。

【小林議長】

上田委員大丈夫ですか。ほかよろしいでしょうか。なければ終わりに向かいますが、皆さんよろしいですか最後に。では本日の区政会議は以上になります。長時間にわたりご協力いただきましてありがとうございます。それでは事務局へお返しします、お疲れ様でした。

【森区政推進担当課長代理】

ありがとうございます。小林議長ありがとうございます。委員の皆様もありがとうございます。ここで、区役所から1点事務連絡をさせていただきます。資料をお配りするので少しお待ちください。

【得能総務課長】

すみません、総務課の得能でございます。座らせていただきます。今お手元にですね、区政だよりの6月号ですね、お配りさせていただいております。こちらの一番裏面の8面ですね、右下のスケジュール表ですね、スケジュールカレンダーのほうちょっと見てい

ただいて、8面です、一番うしろのページになります。このですね、6月のイベントカレンダーの一番下に、修正テープで何かを消した跡がちょっと見えるかと思えますけども、実はここに、29日日曜日、日曜開庁、というふうにございました。で、その上にですね、22日日曜日、日曜開庁、とございまして、6月の日曜開庁は第4日曜日の22日日曜日のみ、でございまして、29日の日曜開庁はございせん。それが発覚したのが6月の頭でございまして、そのまま置いときますと29日、多数の方が来られるとお互いちょっと、大変なことになりますので、今現在可能な限りですね、修正でありますとか回収でありますとかあるいはあの町会の回覧とか様々な方法を駆使いたしまして考え得る限りリカバリーといたしますか図っております。本日はですね、委員の皆様何かしていただきたいというわけではございせんが、そういう広報の誤りがございまして、現在、回復を図っている途中だということでございまして。誠に申し訳ございせん。今後ですね、適正な広報に努めてまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひします。ちなみにですね、1枚張り紙と言いますかA4の紙もあると思ひますがこれ現在区役所のいたるところに貼っております、なるべく29日に来られないように努めておりますので併せてよろしくお願ひいたします。私から以上でございまして。

【森区政推進担当課長代理】

ありがとうございます。最後に数点ご連絡がございまして。本日の議事録につきましては概ね30日後を目途にホームページに掲載し公開する予定となっております。よろしくお願ひします。次回のにぎわい部会ですが、候補日があったんですが再度調整中ということで考えてございまして。日程調整につきましては改めてご連絡を差し上げたいと思ひますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

また次回、第2回にぎわい部会ですが、議論のテーマを絞りまして委員の皆様で活発な意見交換をしていただければと考えております。本日机の上に置かせていただいております区政会議の議題に関するアンケート（にぎわい部会）につきまして、恐れ入りますが今からご記入いただきまして、机の上にそのまま置いてお帰りいただきますようお願ひします。また、本日いただきましたご意見のほかにもご意見ご質問などございまして、お配りしております意見票にてお寄せいただければと思ひますのでよろしくお願ひします。それでは以上を持ちまして第1回にぎわい部会を終了いたします。皆様、大変長時間にわたりご協力いただき、まことにありがとうございました。